



いんせき 隕石はどこからやってくる？

隕石の落下は数年に一度という低い確率でしか起きませんが、2020年7月2日の未明に関東地方の多くの場所で火球が観測されたことをニュースなどで覚えている人は多いのではないのでしょうか。その火球の元となった隕石が千葉県習志野市や船橋市で発見されたことから、「習志野隕石」と名付けられました。現代はスマートフォンのカメラや車に搭載したドライブレコーダーなど多くの人が利用するようになり、昔よりも隕石落下の様子が写真や映像として残るケースが増えているように思います。

さて、そんな隕石はどこからやってくるのでしょうか？ 実は、隕石というのは宇宙空間では「小惑星」に分類されています。火星と木星軌道の間にはたくさんの小惑星が集まっている場所がありますが、これを「小惑星帯」と呼んでいます。

小惑星の中には軌道が地球の軌道と重なっているものもあり、たまたま小惑星と地球が同時に通ったときに小惑星が地球の大気圏に突入してきたものが隕石なのです。

まるちたいけんドーム入口にも隕石が展示されています。名前は、カンポ・デル・シエロ隕石。「空の草原」という意味があり、1576年にスペインの冒険家たちがアルゼンチンの原住民から「空から重たいものが落ちてきた」という伝説の話を聞き、その話を基にアルゼンチンで発見された隕石です。実際に地球へ落下した時期はよくわかって



まるちたいけんドーム入口横に隕石が展示されています

いません。展示されているものはその隕石の一部分で、鉄を多く含むこの隕石は大きさの割に重たいのです。まるちたいけんドームへお越しになった際は、ぜひご覧ください。

2021年6月28日記（解説員：伊藤 貴大）